

- 池上彰のインタビュー⑤
「夢中」がひらく「探究」の道 2
さかなクン 東京海洋大学 客員教授・名誉博士
- わたしの一里塚
安心を支えるために 8
松山 大耕 妙心寺退蔵院 副住職
- ここに教育あり
大館ふるさとキャリア教育、新章への挑戦 10
野呂 謙一 秋田県大館市教育委員会 教育監
- 社会と教育の架け橋
デジタル時代を安全に生きるための学び
～子どもたちが自ら考え判断する力を育てる～ 12
前田 侑哉 トレンドマイクロ株式会社 シニアスペシャリスト
内藤 祥華 トレンドマイクロ株式会社 シニアマネージャー
- 異国日本の地に立って
「違いを受け入れる」ことの大切さ
～日本とインドネシアをつなぐために～ 14
リフキ ムハマド ハフィド 公益財団法人 守屋留学生交流協会 第44回奨学生
- 子どもとともに
林間は私たちの教室だ
～「本物」に触れ、未来を切り拓く知恵を育む～ 裏表紙
長野県伊那市立伊那西小学校
- 資料
ロサンゼルス鳥獣図

階

【きざはし】

～社会科教育を考える～

No.55

2026年6月

子どもとともに (裏表紙掲載)

今回は長野県伊那市立伊那西小学校の取り組み



池上彰のインタビュー
今回は さかなクン

学校林である林間のマラソンコースを整備するため、子どもたちが根っこを切っている様子。

子どもとともに

りんかん
林間は私たちの教室だ
～「本物」に触れ、未来を切り拓く知恵を育む～

長野県伊那市立伊那西小学校

●日本一、学校林に近い学び舎

「校舎を出たら、そこはもう林間」。長野県伊那市立伊那西小学校を象徴する言葉です。創立から75年、地域の方々が「祖父や父の代から」と大切に守り継いできた約1.3ヘクタールの学校林、通称「林間」。ここは単なる遊び場ではなく、子どもたちが本物の自然に問いを立て、解決策を見いだしていく「生きた教室」です。私たちは「林間は私たちの教室だ」という合言葉を掲げ、生活科や理科、総合的な学習の時間など、教育課程のあらゆる場面にこのフィールドを位置付けています。

●子どもたちが本物の自然と触れ合いながら進める林間での活動

本校の象徴的な活動の一つに、全校児童で取り組む「林間マラソンコース」の整備があります。約800メートルの起伏に富んだコースは、子どもたちの手によって維持されています。夏場、生い茂った草木でコースがふさがると、高学年をリーダーとした縦割り班の仲間と協力し、鎌を手にもって草を刈り、時には根を掘り起こして道を整備します。「自分たちが走る場所を自分たちの手で整える」という経験は、不便を嘆くのではなく、自らの環境を自らの意思で改善していく「主体的な学び」そのものです。

整えられたコースを、朝の澄んだ空気の中で駆け抜ける。その一歩一歩が、子どもたちのたくましい心身を育てています。また、林間の木をみんなで伐採して、翌年のシイタケ菌打ちに利用して、林間を通して命のサイクルを学んでいることも伊那西小学校ならではの姿です。

●遊びを「探究」へ、体験を「貢献」へ

林間での学びは、常に子どもたちの「やりたい」という好奇心から始まります。例えば、理科の「ものの燃え方」では、空き缶で自作コンロを作り、林間の枝を拾って、火をおこす試行錯誤を繰り返します。そこで得た「空気穴の重要性」という知識は、単なる教科書上の正解ではなく、寒い冬の日の下級生へ振る舞うラーメンを作るための「知恵」へと昇華されます。また、1年生の時に決めた「私の木」を6年間見守り続ける定点観察も行っています。3年生の「風とゴムの働き」の単元では、理科室で台車をゴムで引っ張って学ぶのが多くの学校で行われている授業ですが、本校では「私の木」から切り出したY字の木を使ってパチンコを製作し、どんぐりの実を飛ばして楽しく経験を積んだ後に、ゴムをひく長さや飛んだ距離の関係を考える授業を行ったりしています。

●地域の大切な宝としての学校

現在、本校は小規模特認校として、全国から多様な背景を持つ子どもたちが集まっています。令和8年度は全校児童の半数が、この「森の教育」を求めて教育移住や特認校制度で通っている子どもたちです。人口減少という課題を抱える地域にとって、地域総出で子どもたちを育む場となっています。

●子どもが自然と共に学ぶ学校

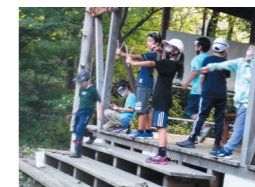
伊那市の教育理念「はじめに子どもありき」。この言葉と林間での活動を融合させながら、私たちはこれからも、子どもたちが自ら大地に根を張り、林間という最高の教室で、高く枝を伸ばしていく姿を温かく伴走し続けていきたいと考えています。



① 林間マラソンの様子。約800メートルのマラソンコースは、専門家の指導の下、子どもたちの手で整備されている。



② 林間でタケノコ掘りをする4年生。



③ 作ったパチンコの試し打ちをする3年生。



④ 学校から谷を見下ろすと、南アルプスが一望できる。

帝国書院

階
【きざはし】

2026年6月24日発行 (No.55)
発行人：守屋 智央 発行所：株式会社 帝国書院
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-29
電話03-3262-4795(代)

©Teikoku-Shoin Co.,Ltd. 2026
https://www.teikokushoin.co.jp/
X(旧Twitter) ID: @Teikokushoin

『階』へのご意見・
ご感想はWebで
お寄せください。

